

ご挨拶

今回の
お知らせ

- 定例会見でお伝えした内容
- 新たに発見された不適切なケーブル敷設について

福島第一原子力発電所の事故では、未だに福島県の皆さまをはじめ、新潟県内の皆さま、広く社会の皆さまに、たいへんなご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。

柏崎刈羽原子力発電所では、福島第一の事故を教訓とした様々な安全対策をすすめており、これらの取り組みが、新しい規制基準に適合しているかどうか、現在、原子力規制委員会に審査いただいているところです。

また、万が一に備えた避難支援策の具現化に向けた取り組みもすすめています。

こうした現状や取り組みに加え、至近の出来事やトラブルなども、新潟県にお住まいの皆さまにしっかりとお伝えする事を目的に、この「東京電力通信」を発行する事といたしました。

皆さまのご心配やご懸念に少しでもお応えできるよう、今後は、四半期に1回実施している定例会見に合わせて発行する予定です。

どうぞよろしくお願いたします。



新潟本社代表
木村 公一

定例会見でお伝えした内容

コミュニケーションに関する取り組み

東京電力コミュニケーションブース

2015年10月以降、新潟県内9ヶ所で開催し、新潟県にお住まいの皆さまのご不安やご懸念にお応えすべく、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などについて丁寧に説明しました。

2016年11月に長岡市で開催されたイベントでは、放射能などについて不安を抱える子育て世帯の方々を対象に、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策に関するパネル展示のほか、足こぎ発電機等を使ってご家族で電気や発電の仕組みに触れていただきました。



地域の皆さまへの訪問活動

地域の皆さまの声をしっかりとお聞きし、ご質問等に真摯にお応えすることを目的に、2016年5月から9月にかけて、柏崎刈羽原子力発電所の立地地域（柏崎市・刈羽村）にお住まいの皆さまを戸別にご訪問させていただきました。

避難支援充実に向けた取り組み

被災者支援活動チーム

2016年3月の原子力関係閣僚会議で決定された「原子力災害対策充実に向けた考え方」では、原子力事業者の責務と具体的な対応として「被災者支援活動チーム」の設置が求められています。

これを受け、地域の皆さまの避難等に関する支援を行うことを目的として、2016年10月、新潟本社で「被災者支援活動チーム」としての運用を開始しました。現在は新潟本社の社員約50名の体制ですが、今後は、柏崎刈羽原子力発電所等との協働により要員や内容の拡充を図ってまいります。

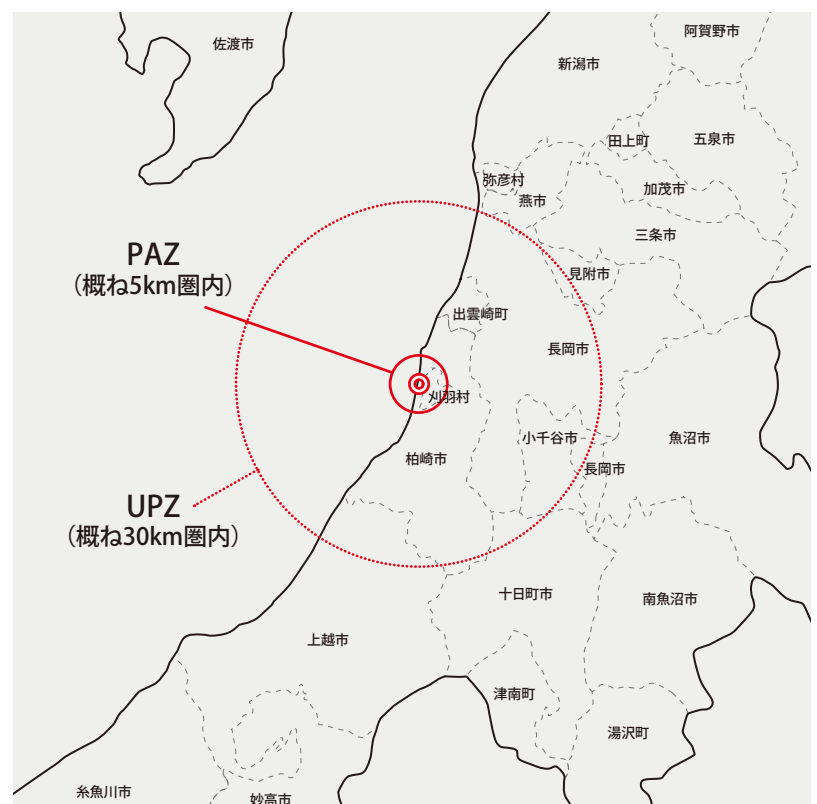
初期活動Ⅰ PAZ(概ね5km圏内)における避難支援活動

初期活動Ⅱ UPZ(概ね30km圏内)における支援活動

PAZ——放射性物質の放出に伴い直ちに対策を実施する区域

UPZ——放射線等を測定した結果等に基づき必要な対策を行う区域

原子力災害時にPAZやUPZで、福祉施設や在宅で介護を必要とされる方々の避難支援活動を行うほか、緊急時モニタリングやスクリーニング活動、ヨウ素剤配布などの支援を行ったりすることを想定し、資機材等の配備を含め準備をすすめているところです。



資機材の配備等

支援に必要となる資機材については、被災者支援活動チームの運用開始に合わせて順次配備をすすめており、現在は、準備段階として新潟市内にマイクロバス1台、福祉車両2台、車いす8台を配備しています。また、新潟本社に在籍する社員を対象に、介護を必要とする方々のサポートに必要な技術を習得する「介護技術セミナー」の受講もすすめています。



トピックス 新たに発見された不適切なケーブル敷設について

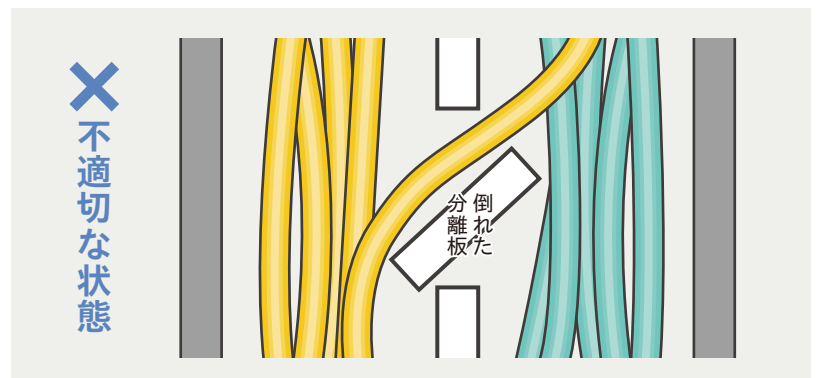
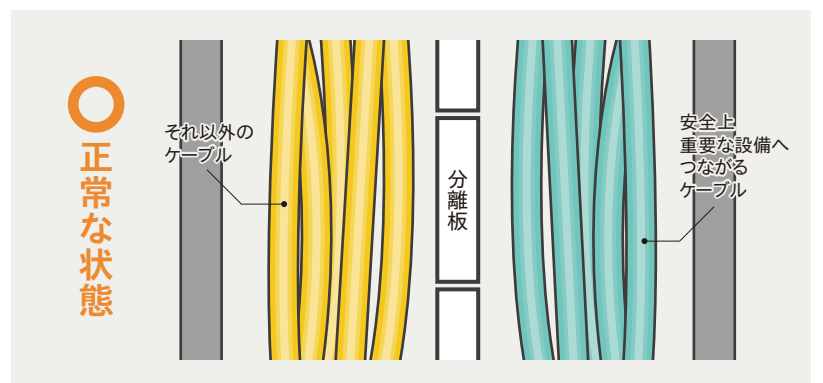
Q そもそも「不適切なケーブル敷設」とは どういう事なのか？

A 発電所では、火災の延焼などにより設備被害が拡大する事を防ぐために、安全上重要な設備へつながるケーブルとそれ以外のケーブルは分離して敷設する事としています。

ところが2015年9月、分離されるべきケーブルが混在している状態となってしまう箇所を発見しました。

そこで、分離されるべきケーブルの混在がないか調査したところ、多くの箇所でケーブルの混在が発見されました。

この、分離されるべきケーブルが混在してしまっている状況を「不適切なケーブル敷設」と言っています。



※イラストは敷設状態を上から見たイメージであり、ケーブルの混在するパターンはいくつかあります。

Q 不適切なケーブル敷設が新たに 見つかったという報道があったが？

A 2016年9月には6・7号機についてケーブルの混在を解消したと発表しておりましたが、2016年11月下旬、ケーブルの混在が新たに発見されました。

通常の工事ではケーブルを敷設するとは考えにくい場所という思い込みもあり、これまでの調査では発見できませんでした。

このケーブルは現在は使用されておらず安全上の問題はありますが、速やかに混在を解消しています。

Q 今後同様の箇所が発見される 可能性はないのか？

A 現在実施している安全対策工事において新たな形で発見される可能性は否定できません。これまでの点検ですべての是正が完了したと考えるのではなく、常に異常がないか注意深く作業をすすめていくことが大切だと考えています。